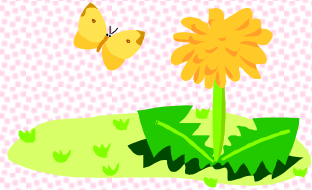


ライオン通信

<URL><http://www.kooge.jp/> <e-mail>info@kooge.jp

Vol.28 平成 18 年 4 月 10 日発行 (月刊誌)

郡家コンクリート工業株式会社
〒680-0427 鳥取県八頭郡八頭町奥谷 206-1
TEL(0858)72-1154 FAX(0858)72-1614



特殊品 承ります!



当社は以前から『他社ができない物作り』にこだわってきました。
規格品を大量生産して安売りをする商売が時代にそぐわないとわかっていたからです。それよりも発注機関のご担当や、地域住民のニーズに合った製品を作る方が喜ばれ、またそれにより他社を差別化することができると思っていました。

しかし、口で言うのは簡単ですが、**特殊品を作るということはデザイン、設計から始まり型枠作り、使用材料の吟味、製造においても試行錯誤と失敗の積み重ねです。**

今月と来月は当社が今まで製造した景観製品の特殊品をいくつかご紹介します。営業スタイルはお客様からのご要望を聞き、たたき台としてCGの作成、素材サンプル（自然石、木、タイル、金属等）の提示など十分な打ち合わせを行い、それらを煮詰めた上で製品作りを開始します。

長年の失敗は当社の財産です。少しは自信ありますので特殊品をご検討の際は、お気軽にお問い合わせください(〜o〜)



CG イメージ

自社で行うのでスピーディな打ち合わせが可能。



製作中の様子(モザイク平板)

小指の爪ほどの石をピンセットで並べています。



トンネル出入り口に設置

アンカーボルトを使つての設置。



完成(〜o〜)

天然石なので経年変化による変色などはありません。

★詳しくは当社営業マンにお訊きいただくか、HP よりお問い合わせください

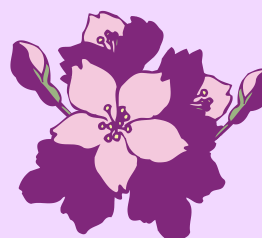
◆ 製品情報はホームページにも掲載しています

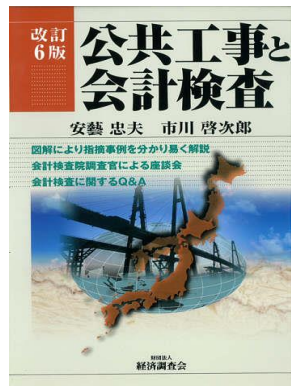
⇒ http://www.kooge.jp/product_c7_1.asp

◆ 製品に関するお問い合わせ☆資料請求は

FAX : (0858)72-1614 E-mail : info@kooge.jp

直通電話: **0858-73-0500**





会計検査院調査官による座談会

前号に引き続き、「会計検査院調査官による座談会」をお届けいたします。この座談会は、いつもの本「公共工事と会計検査」(最新版・平成 15 年度検査分)の最後の方に特集されていたものですが、かなり参考になる内容だと思います。とかく、誤解されることの多い会計検査に対する正しい理解を得る一助になれば幸いです。

検査前には必ず現場確認を

C氏: 僕が思うには、最近の土木業界は発注者自体が行政マンになっていて、ゼネコンの職員が昔の発注者というような感じで、下請け業者が昔のゼネコンのようなものです。今回の失敗の原因は下請けの監督の不注意だったんでしょうね。

司会: ゼネコンが全体をマネジメントしていて、実際の現場の責任を持つのは下請けだと。そこがしっかりしているかどうかはかなり決定的なものということですか。

C氏: そうですね。ほとんどしっかりしているけど、今回のような事態はレアケースでしょうけれども、下請けをきちんと監督できなかつたら痛い目に遭うということでしょうね。

A氏: 今の話は、もう 10 年ぐらい前かな、ある県で今のような話が出てきて、とにかく人間が大分足りなくなったということと、県の技術力がはつきり落ちていて、あのころの検査院はまだ工事検査を相当やっていたから、このままいったら、もう検査院に負けるのは間違いないという、そういう言い方をするんです。

彼らがそのときに実際に何をやっているかという、今の話ではないけれども、工程管理と予算管理をやって、あとは地元とうまくやるのが大事な仕事であって、技術は、基本的に業者にお任せということになっているんです。トータルでは施工不良みたいなものはだんだん少なくなってきて、意識的に手を抜くということは、もうほとんどないと思うんだけど、発注者自体の技術力が足りない。

E氏: 時間がないんですよ。事業評価とか、地元のクレーム処理とかいろいろ入ってくるじゃないですか。事業費は減っても発注件数は減っていないですから。

D氏: 工事費は少なくなったけれども、昔よりやるが増えて、非常に忙しいというのはありますね。

E氏: 人数も減っているから、そういう点では、そういう人たちに技術力をつけろというのは可哀想かな……。

D氏: 特に昔よりかなり地元対応の比重が高くなったと思いますけれどもね。

E氏: 情報公開法ができてから、地元からの苦情とか何かということ公に出るようになったので、そういう点では対応が大変になって、それだけ苦労が増えているということは間違いない話なんですね。

司会: 底版の話も、最初、担当調査官はほかのところを検査していて、底版にずばっと気がついたのではなくて、橋りょうだか、そっちをいろいろとみていて、それで……。

E氏: 発注者もメインの部分はきちんとやっているわけです。次にメインじゃないところに目が行く。さっきの目地の事例でいくと、私、前の年に、その県に、技術講習会の講師で行っているんですよ。検査報告の近年の傾向について2時間ぐらいしゃべった中で、施工については、現場をチェックせずに検査を受けることはないよという話をしていたにもかかわらず、次年度に施工に関して指摘されたということの後から聞いて、去年のあの講習は何だったんだという気持ちになりました。

司会: 現場は見直ししないのですか。

B氏: 私も、県などの研修の講師で何回か言っているのですけれども、県とか市町村の職員が行くのが一番だけれども、請け負った業者は必ず自分の現場に行ってみて、何かあったらきちんと報告した方がいいよと。特に請け負った業者はまず点検してくださいと言ってはいるんですが、それをやっていない。

それから、絶対に当たりそうなところにも発注者は行っていない。だから、さっき言ったような話もあって忙しいのかもしれないけれども、業者にさっとみさせて、こういう事がありましたということぐらいは普通やるべきじゃないのかな。

D氏: 検査するときには、少なくとも工事の起終点にポールとか置いたりしている。そういう意味では現場に行っているはずなんです。

E氏: そうなのは、本体でない上の高欄なんか、きつとみていないんだ。

D氏: 事前準備で行ったとしても、基本的に物がしっかりできているかどうか、そういう目でみるということが大事でしょうね。

B氏: これは以前にいた部屋のことで、さっき言った工事の起終点を現場で分からない事業の担当者がいました。確かこの業者が、前の区間をやっていたから業者に聞いてきますと走った担当者がいましたよ。



写真で発見した施工不良

司会:あと、去年の施工不良では何と言っても空港の施工不良の指摘が目を引きます。施工はスーパーゼネコンで、それも町村の法面工事とかじゃなくて、日本を代表する土木工事の現場でもって、このような信じられないミスが会計検査で発見されたというのも、昨年の工事の指摘の中でも目立つ事例ですね。

A氏:これは比較的若い、あまり工事の検査経験のない若い調査官が指摘しました。

司会:工事検査の経験がない人が？

A氏:出向して帰ってきたばかりの人です。これは事務所に行って、図面をみて、こちらの鉄筋が上にならなくてはいけない、こっちのプレートが下にならなくちゃいけないというところの説明まで聞いて、あとは写真をみて。私、あとからその写真をみせてもらったんだけど、ぱっとみても分からない。本当にそここのところに目を向けないとだめなんだ。そういう意味では本当によくみたと思うし、写真だけからみつけるというのは難しいですよ……。

司会:この工事は、橋台から 1P~6P と施工しているようですが、指摘が 3P から 6P の 4 基だけとなっていますが。

C氏:いいのと悪いのがあったから気がついたのかな。

A氏:いや、そうでもない。

C氏:ほかのはきちんとやっていたの。

A氏:きちんとやっていた。正しくやったところとそうでないところは、下請けのパーティが違うんですよ。

司会:下請けの差がはっきりと出ていますね。これはかなり特殊な構造物ですか。

A氏:非常に特殊なんですよ。こういう設計は普通やらない。

司会:プレートを介して荷重を伝えるなどという設計はあまりないんですか。

C氏:港湾関係だと床版が薄いからこういうのは結構あります。

A氏:やり方としてはいくつかあるんですけども、実際にほかの空港でもまるで同じやり方でやっているものもあります。普通だと、鉄筋ではなくて、鉄骨を使ってやる方が一般的なんじゃないかという話があります。一応、港湾の技術上の基準の中にはこういうやり方も記載されています。

C氏:その調査官は前にそれをみたことがあるの？

A氏:ない。私が港湾の検査をしていたときに、そう言えばこんなものがあったなという気はしたけれども。

C氏:だから運輸、港湾系の人間でないと分からない。

司会:最初読んだときに、これは何を言っているのかと思いましたね。よーく文章を読んで、こういうやり方もするのか、ふうーんと思いました。

A氏:この調査官はその後他の空港建設工事に行って、やはり躯体の鉄筋を検査して、フックを引っかけ場所が違っているという指摘をしている。それは結果的に計算上セーフになったんだけども。そういう意味では、鉄筋の配筋に非常に興味を持って検査しているわけで、そういう意味では大したものだった。

司会:若くて真面目で優秀だと、過去の指摘事例をきちんとみると経験がほとんどなくても応用がきくんですね。

A氏:ここは発注者の監督員が指摘箇所の配筋検査に行っているんだよね。

C氏:何だって、監督員は検査に行くよね。

A氏:もちろん行くんだけど、配筋検査で行っているんですよ。それで指摘箇所の配筋図を持っている写真があるんだよ。そういう意味では、どっちに溶接したらいいかということに気がついていないんですよ。変なところに溶接して、本来溶接しなくていいようなところも溶接しちゃっている部分がある。業者の方は、一番最初に間違えたのは、主鉄筋ではないと考えて、これはもう用心鉄筋みたいなもので、つけられるところにはつけておけばいい、だから別にプレートが上だろうか下だろうが関係ないと考えたようです。

C氏:図面はちゃんとしたものだったんですね。

A氏:そうです。

さっきの底版の指摘もそうだけれども、検査院の指摘があるときというのはだいたい一つだけの間違いではない。どこかで何カ所か必ず、いくつかのチェックを通り抜けて指摘されている。

C氏:下請けが、きちんと図面を読めない人間だったんだ。

A氏:しかも発注者も読めてない。

司会:そういう点では、下請けは重要ですね。

A氏:やはり実際に施工するところが一番重要だと思いますね。

A氏:10 年以上前に、補助だけではなくて直轄でも鉄筋に関していくつか間違いがあって、そのときに国会でも話があって、詳細設計照査要領というものをつくったんだ。ところが、とにかく、あれをみろ、ここもみろといって、いろいろなものが全部書いてあって、そのとおりみれば確かに間違いは起きっこないんだけど、実質的には要領を制定したけれど上手に活用できていない。直轄だけではなくすべての都道府県にも流してあるんだけど。

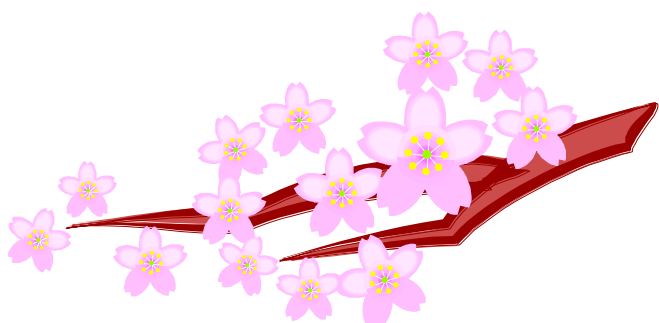
司会:細か過ぎるんでしょう。とてもやられてないというふうになっちゃう。

D氏:あれをすべてチェックするのは至難ですね。

C氏:設計照査をもう 1 回発注しているところもありますね。

A氏:照査要領が出た 2 年か 3 年ぐらいたった後で、実際にどういふふうに役に立っているか、フォローアップしろと言われて、あれが出ているだろうと言って、その文書の管理者を呼んだけれども、某県の技術管理課が、「そんなものは来ていません」というわけ。最後に、「ありました。フロッピーの中に入っていて、まだ出していません」と言うんだよ。

次号(5月号)へ続く



シオちゃんの製品紹介コーナー

環境ブロック ハーモニーロック

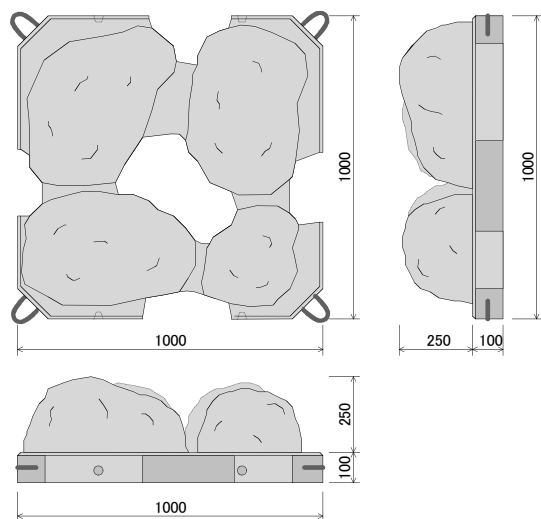
特長

- 形状・肌あい共に自然石に近い修景ブロックです。
- 客土が地盤と通じているため、植物へ容易に水分が補給され根が定着しやすくなっています。
- ブロック表面を植物が繁茂して覆い隠し周囲の景観と調和します。
- ブロック相互は専用連結金具により強固に一体化されています。
- 大型ブロックなので、早くて安全な機械施工が可能になり、ガイドピン工法とともに省力化・施工期間の短縮が図れ、施工費が低減できます。

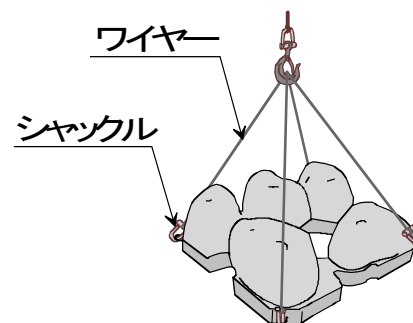


国土交通省発注 鳥取市内 千代川護岸

【製品図：基本型】



【吊り上げ方法】

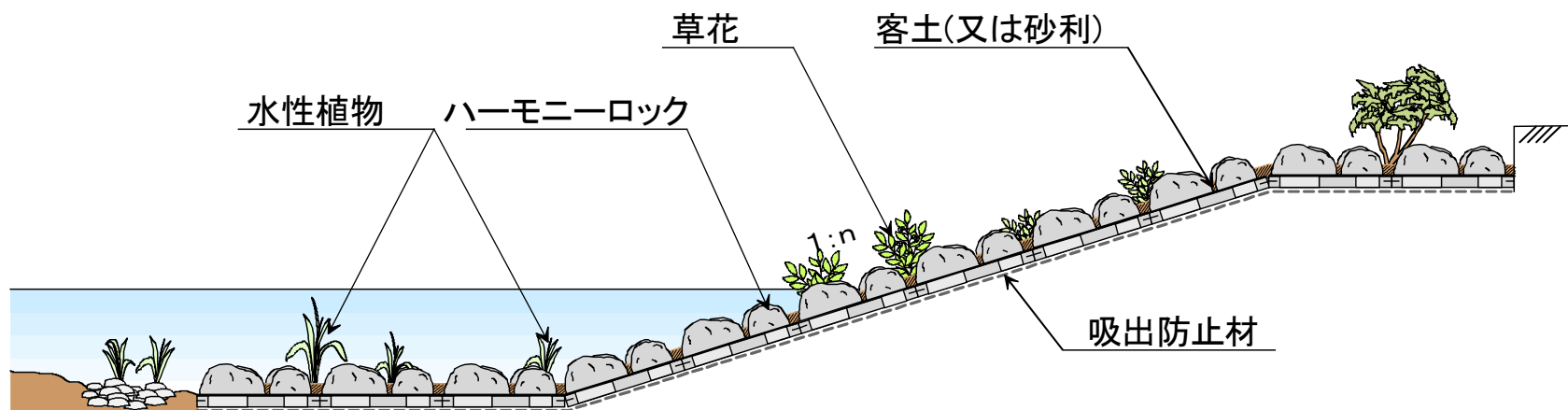


【規格寸法】

呼び名	幅 (mm)	長さ (mm)	厚さ (mm)	参考重量 (kg)
基本型	1000	1000	250/100	450
半型	500	1000	250/100	240

施工方法

- 1) のり面を所定の勾配に整地し、必要に応じて吸出し防止材、又は裏込め材を敷設する。
- 2) 施工金具をブロックに装着し、クレーンで吊り上げ、のり面に敷設する。
- 3) ブロック相互を連結金具とガイドピンで一体化し、客土又は砂利を間隙部に充填する。



◆ ハーモニーロックをご紹介しました ◆ 次回は紙面の都合上このコーナーはお休みとなります ◆

編集後記

4月になって鳥取にも一気に春が来たようです。当社では新入社員はいませんが、他の職場の新入社員を見ても一生懸命仕事に取り組む彼らの姿勢は気持ち良いものです。自分もこんな時があったなと懐かしくもありますし、現在の自分を見比べて反省もしています。

さて、先月もお願いしましたが皆さんの異動に伴って、ライオン通信がお手元に届かない可能性がありますので、確認のため営業マンを皆さん（鳥取県内）の職場に廻らせます。大変ご迷惑かと思いますが、その際はよろしくお願ひします。（山根）



<URL> <http://www.kooge.jp/>

<e-mail> info@kooge.jp